

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

物質・生命化学科 内藤 順也

学生さんに学問への興味を持ってもらうにはどうすれば良いか。私は日頃の教育で特別な工夫をしているわけではありませんが、冒頭のことを第一に考えるようにしています。令和 7 年度の優秀教員に選出され、私の心がけていることが学生さんの学びの一助になれたことが実感できて嬉しく思います。教壇で多くの学生さんに伝えるときや、研究室で 1 人ひとりの学生さんと向き合うときに、私は冒頭のことを考えるうえでいくつか意識していることがあります。

まず、教員自身がその学問に興味を持っているということを学生さんに伝えるように心がけています。例えば講義では、新しいことを知り面白いと感じるところで、また、研究室では、未知の現象に遭遇してワクワクするところで、そのときの感情を表情と言葉で伝えるようにしています。感情は人の行動の源であるとは私思っているので、教育においてこのことを最も大切にしています。

また、学生さんの理解度に合わせて教えるように心がけています。新しい内容を説明する際に、学生さんがどこまでのことを知っているのかを確認しながら、必要に応じて補足で説明を加えるようにしています。高校までの教育では習ったことの積み重ねで新しい内容が出てくるのに対し、大学の教育では前提知識が無いまま新しい内容が出てくる場合があります。学生さんの理解不足により学問への興味が薄れてしまうことがないようにしています。

そして、学生さんが成長を実感できるように伝えることを心がけています。講義で学ぶ内容は、社会でどのように活かすことができるのか、また、研究室で学ぶ最先端の知識を活用すると、今後の社会をどのように発展させることができるのかを伝えるようにしています。学んだ先の未来が見えなければ、学ぶモチベーションを保つのは容易ではないと思います。学びを通して自身の成長を感じられることが、学問への興味を維持するのに大切だと考えています。

今後の教育では、これまで以上に学生さんに学問への興味を持ってもらえるように、伝え方が上手な人から学ぶことで教育技術の向上を目指します。文章や動画では得られない、対面で大学教育を受けることで初めて学べたと実感できることが少しでも多くなる教育を目指します。福井大学の工学部で学べて良かったと、卒業した学生さんから思ってもらえる教育が理想です。